

地域協議会だより

～様々な研修会を実施しました！～

■「大・浦・安」地域協議会委員研修会【11月13日(水)実施】

持続可能な地域社会を目指す



大島就業改善センターにおいて、令和6年度「大・浦・安」地域協議会委員研修会が、上越市創造行政研究所藤山所長を講師に迎え、「持続可能な地域社会を目指して～地元を創り直す時代～」をテーマに行われました。

自治区ごとの人口・介護診断では人口の減少と高齢化率の上昇、少子化、若者の減少、地域からの女性の流出など、このまま何も対策を取らないと集落がなくなってしまうという深刻な現実であることを学びました。

対策としては、それぞれの地域の特性に合った取組が実現できるように旗振りをしてくれる人財の育成、支援が重要だと痛感しました。地域おこし協力隊の活用や若者が定着したいと思う魅力ある地域づくり、子育てしやすい環境整備などをどうしたら実現できるか考えることが、今ここに住んでいる私たちの責任だと思います。「誰かがやってくれるだろう」ではなく、まずは住民一人一人が小さなことから「何ができるか考える」意識を持つことや、地域の未来を考えられる子どもたちの育成など、地域の今後を改めて考える良い機会となりました。



▲上越市創造行政研究所 藤山所長



▲大島区地域協議会 高野会長

■「地域内の視察・現地めぐり」研修【11月20日(水)実施】

・・・地域における課題や、資源を共有するために、地域内の視察・現地見学を実施しました。

【テーマ①】観光資源のアピールによる地域活性化のための視察

～山本ぶどう園と月影の郷を知る～

宿泊体験交流施設「月影の郷」との意見交換

閉校となった空き校舎の利活用は、全国各地が抱えている課題です。そのような中で、旧月影小学校を宿泊体験交流施設として再生できたことは、数少ない成功事例ではないでしょうか。そこには月影地区の皆さんの熱い思いがあったからこそです。

今年度は、オープンから20周年を迎えました。また、来年度は新たな法人「企業組合月影の郷」が運営を担うこととなります。これを機に、市内外の学校へ積極的に営業を行い、学習体験施設としての利用促進や、全国からの合宿の受入れの増進、利用客が減少する冬場の誘客手段の検討など、理事の皆さんが中心となり、さらなる前進を期待します。

「廃校という言葉は好きではない」という横尾修一支配人のお話に、月影の郷は今まさに生きているのだと実感しました。



▲宿泊体験交流施設「月影の郷」



▲月影の郷横尾支配人との意見交換



▲山本ぶどう組合役員との意見交換



▲展望台から山本ぶどう園を望む

「山本ぶどう組合員」との意見交換

「地域と将来的につながっていけるような方法を検討する」という視点により、山本ぶどう園に訪問し、山本ぶどう組合6人の皆さんと意見交換をしました。現在20戸の農家が約7haのぶどう園を営んでおり、お客様の要望に応えられるよう多くの種類のぶどうを豊富に栽培しているそうです。

ぶどう栽培は多くの作業が連続するため大変忙しく、また1番の問題は後継者がいないということでした。将来的に法人化することも1つの手段とのお話がありましたが、様々な問題点があります。今回は、組合の実態を中心とした意見交換会を実施しましたが、今後、地域協議会としての側面から支援を検討したいと考えています。

【テーマ②】既存建物の利活用方法を探るための視察

～旧小学校、空き家の現状を知る～

旧小学校の現状を知るための視察

平成 28 年 3 月に閉校した旧末広小学校と旧中保倉小学校について、地域活性化に向けた活用を探るために視察してきました。両校とも閉校から来春で 9 年となり、校舎と体育館が似通っています。現在は、市の指定避難所として活用しているほか、市の公文書や備品の保管、地域のイベントに活用されています。

建物の現況（健全さ）や使い勝手の具合を推し量りたい視点で視察したところ、両校とも校舎のコンパクトな間取りは小会議や、工房、実習室などに利用できると感じました。また、老人施設への転用にふさわしいとも感じました。特に校舎は平成に建設された建物のため、このままではもったいないというのが率直な感想でした。



▲旧末広小学校外観



▲旧末広小学校校舎内



▲旧中保倉小学校体育館



▲旧中保倉小学校校舎内

住むことができない空き家と、利活用できる空き家を視察

一口に「空き家」と言っても、きちんと管理がなされていて再度住むことができる無人住宅や、手入れが行き届かず長年放置され廃墟と化している建物など、状態は様々です。無人住宅は古民家としての再生や建材の再利用など、将来的な活用方法があります。また、築年数や状態、間取りなどをデータベース化し、移住希望者に即座に情報を提供できるシステムを構築するのも手段の 1 つでしょう。廃墟は防犯防災上のほか、鳥獣対策、景観上の問題などで早期に撤去されることが望ましいわけですが、実際は所有者任せで放置され、行政でも物理的な対策ができない状態です。今後さらに増えていく空き家に対する問題を、地域協議会としても対策を考えたいと思います。



（イラスト：タラシ）

■正副会長ファシリテーション研修【8月1日(木)実施】

会議を円滑に進めるために

ミュゼ雪小町ギャラリーにおいて、株式会社話し方教育センター、佐藤敬子氏を講師に、市内全地域自治区の地域協議会正副会長を対象とする、ファシリテーション研修が行われました。会議をスムーズに進め、限られた時間内で全委員から最大限に意見を引き出すことができる心構えや進め方を、他の地区の正副会長とのグループワークを交え学びました。今後、会議を進めるにあたり、この研修会で身に付けたことを役立てていきたいと思います。



▲グループディスカッションの様子

■浦川原区委員研修【8月9日(金)実施】

地域協議会のあるべき姿

浦川原区総合事務所にて、浦川原区委員研修が行われました。地域協議会は地域のことを考え話し合う場です。

- ・地域の声を拾い、解決方法を議論する。
- ・地域住民、団体の皆さんと連携して意見交換をする。
- ・事務局と一体となって、市長に意見書の提出をする。

地域の意見を市政に反映し、地域が自発的に人まちづくりを進めていくための仕組みについて勉強しました。

浦川原区地域協議会委員研修

～地域の声が未来へつながる～

地域自治と地域協議会

令和6年8月9日(金)

上越市 浦川原区総合事務所



上越市
JOETSU CITY

【委員からのお知らせ】

今年度も有識者をお招きしての研修会、地域内の観光資源、地域活性化のための視察、既存建物の利活用方法を得るための視察など、さまざまな研修会を重ねて参りました。

まだまだ地域には小さな課題があるかもしれません。1つ1つ地域のために地域協議会委員は研鑽を積んでまいります。

右記の二次元コードに浦川原区地域協議会の活動内容と過去の地域協議会だよりが掲載されていますのでぜひご覧ください。

詳しくは、浦川原区総合事務所・地域振興グループまでお問合せください。

【編集後記】

地域協議会だより第60号をお届けします。地域のみなさんの疑問や困りごとがございましたら、身近な地域協議会委員にお話を聞かせてください。

また、地域協議会はどなたでも傍聴できる会議ですので、ぜひお越しください。

地域の皆さんにとって、今年1年が穏やかな1年でありますように・・・

編集委員：市村千映・金子正徳・五井野利一・杉田和久



地域協議会
の活動状況



過去の地域
協議会だより